

科学研究費(研究代表者:神谷昇)2008年度研究活動報告

雑誌名	Scientific approaches to language
巻	8
ページ	203
発行年	2009-03
URL	http://id.nii.ac.jp/1092/00000734/

平成 20-22 年度 日本学術振興会 科学研究費補助金 基盤研究 (C)

「早期英語教育教材に見る語彙と文法の特徴：真に『英語が
使える日本人』育成に向けて」

研究代表者 神谷昇

2008 年度 研究概要

本科研プロジェクトは、早期英語教育教材に使用される語彙および文法項目について英語学・言語学・英語教育学の観点から記述的調査や理論的研究を行い、その結果に基づき早期英語教育に対する示唆を提供することを目的とする 3 年間の研究プロジェクトであり、以下の項目について調査を行う。

- (1) 「早期英語教育」(小学校での英語活動)で求められる言語能力とはどのようなものか？
- (2) 「中学校でのコミュニケーション重視の英語教育」の言語活動で求められる言語能力とはどのようなものか？
- (3) 上記(1)(2)から得られる言語能力の限界を、「語彙」「文法体系・項目」の点から明らかにし、より「高度な言語活動」を可能にする言語能力とはどのようなものか？

初年度にあたる 2008 年度は、上記調査項目(1)とのかかわりで文部科学省発行の『英語ノート(試作版)』に出現する語彙の品詞割合を調査し、(i)名詞の割合が高いのに対して、動詞の割合が低いこと、(ii)児童が発話する文の主語に 1 人称が多用されること、(iii) swim のような主語の意図的行為を表す「活動動詞」が多く使用されていることを明らかにした。そして、『英語ノート(試作版)』は児童の活動で英語らしい表現を多数導入していることから、「コミュニケーションの素地を養う」という目的に沿った内容であると結論付けた。詳細については「語彙研究フォーラム 2008：第 1 回 JACET リーディング研究会・英語語彙研究会合同大会」(於関西学院大学)で発表し、その内容をまとめた神谷・長谷川・町田・長谷部による本号掲載の論文を参照されたい。